

2019 年 3 月期決算に関する電話一斉取材 主な Q & A

[営業費用]

Q： 建設附帯修繕については、今後も増加傾向にあるのか。

A： 2020 年 3 月期の建設附帯修繕については、対前年+38 億円と計画しているが、今後も設備投資の増加にあわせて、建設附帯修繕も増加傾向になると見込んでいる。

Q： 警備委託費については、今後も増加傾向にあるのか。また、業務委託費のコントロールについては、どのように考えているのか。

A： 警備委託費については、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会にむけてセキュリティ向上を進めているが、2020 年度を境にピークアウトしていくと考えている。また、イノベーション投資を積極的に進めることで、将来にむけて当社事業運営の省力化を図りたいと考えており、その過程で、現在実施している業務委託については、その必要性を精査していきたい。

Q： 2020 年 3 月期の物件費その他が、対前年+322 億円を計画している理由は。

A： 物件費その他の内訳は、業務費+154 億円、業務委託費+168 億円となる。また、業務費の主な内訳について、次世代新幹線「ALFA-X」の試験費として約 120 億円、昨年 6 月の「JRE POINT」統合の平年度化に伴う費用増として約 18 億円を見込む。また、業務委託費の内訳について、駅業務委託の拡大として約 31 億円、警備委託関係として約 23 億円を見込む。

[生活サービス事業]

Q： 2019 年 3 月期の流通・サービス事業、および 2020 年 3 月期の不動産・ホテル事業の営業利益の伸びが弱い原因は。

A： 2019 年 3 月期の流通・サービス事業は、増収に伴う原価増やグループ会社の人件費増等により、営業利益が対前年+2 億円にとどまっている。また、2020 年 3 月期計画での不動産・ホテル事業は、渋谷スクランブルスクエアの開業費等も見込んでいる。

[設備投資]

Q： 2020 年 3 月期において連結設備投資額が対前年で大きく増加する理由は。また、今後の推移につき、どのように考えているのか。

A： 2020 年 3 月期は、対前年+1,380 億円の計画である。内訳として、成長投資は+1,015 億円、重点枠は+330 億円、維持更新投資は+34 億円となる。

渋谷・竹芝・横浜・川崎等の開業が今後控えていることから、2020 年 3 月期の投資額は、対前年で大きく増加する。また、2024 年頃に開業する品川開発プロジェクトにむけて投資が本格化することから、今後も、一定規模の投資規模が続くと考えている。

以 上